

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 金沢市立田上小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒920-1156
石川県金沢市田上の里2丁目1番地

E-mail tagami-e@kanazawa-city.ed.jp
Website <http://www.kanazawa-city.ed.jp>

児童生徒数 男子 399名 女子 407名 合計 806名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域・キャリア教育）

3. 活動内容

(1) 概要

本校は、金沢市の南東部の丘陵地に位置し、創立明治6年の古い歴史をもっている。

近年、金沢市近郊の急速な都市開発の影響で児童数が急激に増加している。学校の周囲は、住宅や道路・大型商業施設などの開発が進められている所と里山の豊かな自然が残されている地域が混在している。また、新たに俵地区が加わり、医王山までの広い地域が校区となった。

ユネスコスクールの認定を受け、地域やそこに暮らす人々をテーマとして生活科や総合的な学習の時間を中心とした持続発展教育の実践に取り組んでいる。

(2) テーマ

田上に生きる
～地域と地域の人に学び、未来にたくましく生きる～

(3) 各学年の取組

1 年生 (生活科) 自然を楽しむ

一年を通して季節を感じる活動を行った。身近な生き物とふれあい、人とかかわりながら自然に親しみ、気づいたことや遊んだことをさまざまな方法で表現してきた。春は、新しい友達と春見つけをし、あさがお等様々な花の種を植え生長を楽しんだ。夏は、水・砂・土などを利用した遊びを工夫し、夏を感じ取った。秋には、どんぐりや松ぼっくりなどを拾い集め、いろいろな遊び道具を作って遊んだ。学習発表会では、これをもとに発表したり、遊びコーナーを設けたりして他学年に向けて意欲的に発信できた。また、1月には地域の方から昔遊びを教わって楽しみ、それを機に、毎日友達と様々な昔遊びを楽しんだ。



2 年生 (生活科) 田上・たんけん・大発見

2年生は、地域探検をしたり、公共物や公共施設を利用したりして発見したことを伝え合う活動を行った。1学期は、自分のお気に入りの場所を紹介して、校区探検を行い、今まで自分の気づかなかった地域の姿を感じることができた。2学期は、「田上の人々のための施設」として、6つの公共施設を見学した。児童が自分の行きたい場所を決め、チームごとに見学の計画を立てた。前もって質問を考え、インタビューしたり、写真を撮らせてもらったりと積極的に調べることができた。



学習発表会では、友だちや他学年、保護者やお世話になった施設の方々の前で、自分たちが詳しく調べたことについて、発表方法を工夫しながら、一人ひとりがいきいきと発表することができた。

3年生（総合的な学習の時間）田上をもっと知ろう

1学期は、田上地域の地形の特色や土地利用の様子を知るために実際に歩いて調べ、分かったことや気づいたことを白地図にまとめた。俵地区の探検では豊かな自然に親しんだ。2学期は、西方面の山側環状線周辺の店が多い地域にあるスーパーマーケットへ行き、働く人たちにインタビューし、お店の工夫について学んだ。地域の和菓子屋さんではおいしい和菓子をつくる工夫を学んだ。そして、どんな発表にして地域の方や他学年に発信するかグループで話し合いながら進めていった。グラフや表を使って説明したり、紙芝居や劇をしたりグループ毎にわかりやすく伝える工夫を考えることができた。また、金沢ふるさと学習では、地域の和菓子店を見学し、実際に和菓子作りの体験を行って、深く学ぶことができた。



4年生（総合的な学習の時間）伝えよう、加賀宝生のすばらしさ！！

4年生は、20年以上前から加賀宝生に取り組んでいる。今年も「能に取り組んで成功させたい」という思いをもって、先輩の映像を見たり、能楽師の中村先生のお話を聴いたりして興味を深め、県立能楽堂の見学にも行き、能に関する様々な体験を行った。また、図工科の学習で「能面作り」を行ったことにより、職人の作品のように作り上げることの難しさを実感していた。工夫して調べたことをまとめ、発表会では、聞き手が能楽に関心をもてるように表現することができた。これらの活動から、伝統文化を継承していく難しさに気付くことができた。また、学習発表会では、全校児童や地域の方々に「羽衣」を披露し、観客を感動させることができ、今後も能に親しみたいという思いを高めることにつながった。



5年生（総合的な学習の時間）とびだせ、ぼくたちわたしたちの里山へ

田上の里山の自然について調べていく活動と、里山の北谷での稲作活動を主な活動として学習を行った。

里山調査活動では、「田上の歴史」「木の実」「キノコ」「植物・薬草」から調べたいテーマごとにグループを作り、図書やインターネットでの調べ活動の他、このテーマに詳しい里山メイトの方と実際に山に入り調べ活動を進めた。学習発表会では、この4つのテーマの他に「里山の生き物」「里山の現状と課題」等調べたいことを絞り意欲的に準備を進めた。相手意識を持って、分かりやすく伝えようと発表の仕方を工夫しながらの発

表となった。また、北谷に広がる棚田での稲作活動では、60年前の稲作の再現ということで、無農薬栽培に取り組んだ。それらを通して昔も今も変わらない人々の願いに気づき、また農薬を使わないことから多様な生物が生息していることやそれらが互いにつながり合っていることなども学ぶことができた。また、収穫したもち米で里山メイトの方と一緒に餅つきをして里山の恵みを味わい、食べるものの背景にどのような努力や工夫があるのかについても考えることができた。



6年生（総合的な学習の時間）田上から夢をふくらまそう

6年生は、様々な職業や働く人に学ぶことを通して、今後の自身の生き方について考え、職業観・勤労観を育むことをねらいとし、学習を行った。田上校区で働く人々や、自分達との関わりが大きい人々の仕事から学んだ。ゲストティーチャーとしてアナウンサーやスポーツ選手経験者、南極観測隊の方を招き、働く人の生の語りから、将来の夢、生き方についての考えを大いに膨らませることができた。さらに、校区の施設や商店、保育園、裁判所、森林等をたずね、仕事のやりがいや苦勞、必要な努力や技術・知識等を調べて発表した。また、芸術に携わる方にも実演とお話をして頂いた。締めくくりとして「未来社会に生きる」と題し、金沢工業大学教授の白木みどり先生のお話に学んだ。お話を通して、児童は、どんな職業も社会に必要であり、自分たちは社会を支える大切な存在であることを理解できた。これら一連の学習を通して、児童は夢をもち、自分の生き方を考えることの大切さや夢の実現のために自己を向上させていくことの必要性を学び取ることができた。



2 成果と課題

毎年、E S D教育の成果の発表の場として、学習発表会を行っている。本年度の成果は、どの学年も、前年度の取組をふまえつつ児童の探究意識を高めるための工夫を行ったことである。例えば6年生では、児童が興味を持った職業について、調べ活動を充実させるために、可能な限り新たな職場を開拓している。その結果、学習発表会では、様々な表現方法で発表する姿が見られた。

しかし、近年の急激な児童数増により、見学などの体験学習を行う際の課題も生まれている。また、地域の里山メイトの方の高齢化のため、新たにサポートしてくれる方を開拓していく必要性も出てきている。今後数年は、児童数がさらに増えるので、一人一人の活動が充実するよう、環境整備を進めていく必要がある。さらに、発信の場としての学習発表会のあり方を工夫し、他校との交流（ニッセイ学校の森の活動など）を継続的に行うなど、より充実した学びを目指したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）